



混合の部で優勝した Team「ラタマキュー」の林佳苗。背後には秋吉台のカルスト地形と石灰岩が多数見える。

どこまでも広がる緑の絨毯。 凸凹のカルスト地形。

2012年5月20日(日) 山口県秋吉台
秋吉台ロゲイニング

結果

家族	小野晴義/菜摘	632点
混合	ラタマキュー	1166点
混合シニア	ディスカバラ	652点
ジュニア	のだくんち	553点
女子	松村優子	788点
男子	津久見市駅伝部	1349点
男子シニア	木村佳司	1207点

満喫・秋芳台！

山口県の隠れた名物・蒲鉾と、ふぐ酒を買い込んで新山口駅から「のぞみ」に乗れば、一気にゴクラク気分になる。賞品でいただいた電池式マッサージバイブレータが足をもみほぐして今日の激しかったレースの筋肉が癒されてゆく。

レース中盤、新緑の草が伸び盛りの季節。短パン出走したことを後悔するような小径をいくつか通って秋芳台の最深部に突入してゆく。このあたりになると、もともと少ない参加者がバラけてしまって、もう誰にも会わない。

晩春の中、咲き誇る黄色い小さな花々。ときおり姿を見せる野鳥。思い出したように整備の行き届いたトレイルの数々。あたりは見渡す限りの草原とカルスト台地特有のクレーター（ドリーネ）。ここには日常の社会から離れた風景が広がる。こんな風景の中をクルージングしたイベントが秋吉台ロゲイニングだ。

筆者・木村は同じような草原で行う「霧ヶ峰ロゲイニング」の主宰者である。それゆえ霧ヶ峰ロゲイニングには参加したことがない。今回、同じような大草原で行われる秋吉台ロゲイニングに参加することで、霧ヶ峰参加者の本当の感覚が判ったような気がした。

今回最高得点を挙げたのは、津久見市駅伝部。田久保氏が率いる駅伝チームだ。田久保氏は、以前に関東の大学クラブに所属し、オリエンテーリングで活躍していた。今は大分県に住み、地元駅伝チームの一員として活躍している。駅伝チームの若いメンバーを率いての参戦だ。

かつては山口大学オリエンテーリングクラブによるO-map作成に始まり、インカレや全日本大会が開催された秋吉台。だがかつての活動を知る人は少なくなっている。

そして今、山口では数多くのロゲイニングイベントが行われている。この秋吉台ロゲイニングも含めて、まだまだ試行時期である。主宰する団体もさまざま。これらが相互協力し、ナビゲーションスポーツが再び山口で盛んにあることを期待しよう。

(元山口県民・木村佳司)